

# きよく nerl).

#### CONTENTS

- 人類の負の遺産 アウシュビッツを訪ねて~
- と出産しました



Muraguchi Kiyo Women's Clinic

## 人類の負の遺産 "アウシュビッツを訪ねて"



#### 坂総合病院名誉院長 村口至 先生

アウシュヴィッツ・・ベルリンの壁・・・ケーテ・コルヴィッツ美術館・・・ と並べた時に、喜代院長曰く「暗い旅になるヮネ!」との反応。 しかし、とても学びの多い旅となりました。人間の狂気と悲劇を目の当たりにし、辛い 時間でもありましたが、「人間の奥底の真実・真理に触れられた」という静かな感動 とともに、あまりにも知らなさ過ぎたという自省の念にとらわれたのでした。

アウシュヴィッツには、ワルシャワからクラフクへ飛び1泊し、翌日バスで約1時間半揺られ到着。 すでに、入り口には長蛇の列。 広い駐車場も満杯状態であった。 ガイドの待ち時間までの小一時間を、 収容所の周囲を歩いた。 錆びた鉄路が朽ち果てそうな枕 木とともに一直線に伸びている。 雑草に交じってタンポポや、 ぺんぺん草が顔を出す。 収容所に横付けされた、 人間をぎゅうぎゅ う詰めにした貨車がここに止まり、 よろよろとした囚われ人がどっと吐き出されたのがこの場所であったに違いない。 この鉄路は第 2 の収容所ビルケナウにつながっているのであろう。3mほどの高さで周囲を囲むばら鉄線は、電流を流していたに違いない。周囲は、 緑で囲まれているが構内の緑は少ない。 構内の建物に隣接して書籍販売所があった。ドイツ語、 英語、 スペイン語、 ポーランド 語の中に 2, 3 種類の日本語の本があった。 意外なことにアウシュヴィッツの「絵葉書」はなかった。 "えはがき" にできる現実 ではなかったことを示しているものと納得した。

#### 日本人ガイドの案内で・・・

ガイド中谷氏の案内には28人の日本人が参加。若者が多い。「働けば自由になれる」との標識のある門をくぐり、ぞろぞろと施 設を巡る。 背丈ほどに積まれた頭髪の山々、 小さい子のサンダルも混じった靴の山々、 立派であったろう革スーツケースの山々、 薄暗く寒々としたガスシャワー室、餓死を想定した拷問のコンクリートの囲い場、そして広場にある見せしめ銃殺処刑の壁。 シャワー 室は、旅で汚れた体を洗うためと称して、衣服を脱がせて送り込み、シャワーの口からお湯ではなく、毒ガスを頭から吹きかけた

のであった。2階建ての木造の棟・棟が並ぶ道路には、高くもない監 視塔があちこちにある。 格子窓から監視されている様に思えてくる。 太く 大きな煙突のある死体焼却棟。 それぞれを囲む電気を流した延々と続く ばら線。 ガイドの話では "レントゲン写真" と言われたとあった。 つまり、 追い詰められて自制心を失った囚われ人が、逃げ出そうとしてばら線に 向かって突進すると、「レントゲン写真」の如く、一瞬"人間の骨"が 映し出されたということでした。 なんとも残酷な話です。 "人間はここまで やるんだ"。次第に、見学者の会話も呟きになり、押し黙ってきた。

構内には、 収容所長の家族の住んでいた屋敷が残されていた。 敗戦 間際に、ベルリンに戻っていたところ、ベルリン空襲のためアウシュヴィッ ツの方が安全とのことで家族は戻ってきたとのことだ。その屋敷は、大量



裏面に続く

の人間を焼却した大きな煙突のある建物と、目と鼻の先にあった。

構内には、緑の木々が生気を与えてくれる感じであったが、これらは戦後植えられたとのこと。 つまり緑も奪い殺伐とした環境に人びとを置いたのであった。 建物の板の階段は、 人々の歩きでこすられてへこんでいた。 戦後、 おびただしい訪問者があることを示しており、 唯一 "鎮魂" の表現とこころ強く思ったのでした。

3 段ベッド(と言っても木の蚕棚)を見た時に、あの少女が向かってきた。 その少女とは、 囚われた人びとが隠し持ち込ん だ数冊の書物を、 厳しい監視の目から必死に守りながら次々と貸し出しして守り抜いた。 数学の専門書や哲学書などもあったという。 明日の命もわからない中で「にんげんの知的欲求」を満たすために命を懸けた少女がいたのでした。 この過酷な環境の中で命を賭けての図書貸し出し係を買って出ていたのでした(アントニオ G イトウルベ著「アウシュヴィッツの図書係」)。

囚われの身となったユダヤ人歯科研修医が、収容所の管理者たちの歯科治療を命じられ重宝された話。 同じ医者でも外科 医や内科医は "役立たず"であった。 ユダヤ人でもその "特技"が命を守った話である。(ベンジャミン・ジェイコブス著「アウシュヴィッツの歯科医」)。

精神科医(心理学者)が囚われの身になったときの、精神、心理が追い詰められた体験を専門家として分析した。 幾多 の困難事態と肉体の限界を感じつつも冷静な判断が、 身を救った体験も素晴らしい(ヴィクトール・E・フランクル著、 池田香代子訳「夜と霧」)

#### 極限の困難の中でも人間は・・

アウシュヴィッツは、 人間の底知れぬおぞましさを示した。 その極限の困難な中でも人間は、 人間性を磨き上げるものだという事実も人類の遺産として記憶する機会となった。

入り口の『働けば自由になれる』は、なんとも"人を食った"表現からして、標語を作った人間の"嘘・偽り"の自認が透けて見える。「人をだます」行為が国家ぐるみとなったときに、どれだけ人類史的な犯罪につながってゆくのかをドイツが示してくれた。そのドイツは、ベルリンの街中にも広大な敷地にモニュメントをつくり、"人類の悪の遺産"として明示している。旧ユダヤ人街には、道路の石畳のそちこちに、虐殺されたユダヤ人の氏名と命を奪った場所名を刻んだプレート(つまずきの石)が埋めてある。



ベルリン・ユダヤ人慰霊碑

### オフタイム 第二子出産しました(^v^)

患者情報管理 柴田泰子

2018 年 5 月 21 日、 4035gの大きな男の子を出産しました。

41歳、体外受精、切迫流・早産という第一子以上にハイリスク妊婦でしたが、何とか無事に元気な赤ちゃんを産むことができました。 妊娠 11週で切迫流産入院となり、5歳の長男を抱え綱渡りのような生活でしたが、母をはじめ職場の同僚や友人など、皆さんのお陰で乗り越えることができました。本当にありがとうございます。

切迫で「寝たきり生活」の時間は、夫の病気改善に向けて糖質制限を学んで実践したり、なかなかできなかった TOEIC の勉強をしたりして過ごしました。 長かった 10ヵ月ですが愛おしい我が子を抱けて幸せな毎日です。 少し落ち着いたら仕事復帰します!



#### 臨時休診

- 8月13日(月)~16日(木)は、お盆休みのため。
- 9月22日(土)は、第38回日本性科学会参加のため
- 9月27日(木)~29(土)は、クリニック研修旅行のため休診となります。

発行元:村口きよ女性クリニック http://www.muraguchikiyo-wclinic.or.jp e-mail:con@muraguchikiyo-wclinic.or.jp

